

上杉山中同窓会報



支倉常長の雄飛に想う

同窓会 会長 佐々木 博

(十一回生) 博

支倉常長（政宗の家臣）一行が、グアム・キビール川を遡り、上陸したのがスパン・セビリヤ近郊の町コリア・デル・リオ。ローマ法皇に謁見の許可が下りるまで滞在した町である。常長は滯在中に、キリスト教の洗礼を受けた。（キリスト教禁止令施行後帰國。処刑はされなかつたが、寂しい晩年を送る）

この地に残ったサムライとの混血がハポン（日本の意）さんである。現在、上陸地辺りに常長の銅像が建ち、一度は洪水で流されたが、再度植えられた桜の木もある。ハポン会があり、子孫の方々は「サムライの血筋」を誇りにして、遠い地で生きている。

仙台は大都会となり、その歴史的象徴である「伊達文化」が消えつつある。意識も薄れかけているところに、突然「ユネスコ世界記憶遺産」として、洗礼を受けた常長画像等関係資料が登録の報があつた。今年は、慶長遣欧使節四百年記念の年ということも契機となつたようだ。そして俄かにコリア・デル・リオとハポンさん達が再び話題に上つてきた。再びと書いたのは、三〇年位前に一度話題となり、彼らは二度も来仙している。



3年修学旅行（横浜港にて）

杉山堂

会報第6号
平成25年10月19日(土)
発行所
仙台市青葉区上杉6-7-1
上杉山中学校同窓会
発行責任者 佐々木 博

先輩方の努力に感謝して
上杉山中学校 校長 須藤由子

本校勤務も二年目を迎えました。本稿では、校誌「杉の友」を中心に、本校が現在地に移転してきた経緯についてまとめてみました。

本校は昭和二十二年に生徒数二九五人の新制中学校としてスタートしました。上杉山通小学校に間借りしており、独自の校地と校舎が悲願でした。しかし戦後の混乱期でもあり、なかなか進まず難航しました。同年十月にはPTAと学校が協力して「四中建設促進期成会」が結成され、校舎建築に向けて動き出しました。旧制二高の跡地（現在の農学部）等十四の候補地から、実地踏査や交渉を進めましたが、うまくいきませんでした。

第七候補だつた現在地は、当時は水田でした。四人の地主と、五人の小作人の方がおられ、何度も交渉し、昭和二十三年十二月と同二十五年二月の二回に分けて買収に成功しました。なお用地取得や校舎建築費用には、保護者や地域からの多大な寄付金も使われました。昭和二十四年九月に校舎第一期工事が終了し、二九年生が新校舎に移転しました。「当時の校庭は、荒れた田んぼがあつたのみで、雑草が生えて、まるで谷地のように見えた。その雑草を先生と生徒が総出で引き抜いた。長町駅等から炭かすをもらい、保護者が無償で提供したトラックで運び、校庭に撒き、平らにした。校庭整備には市費は一切使わず、全て寄付で賄つた」（杉の友より抜粋）。

昭和二十五年一月に校舎落成式が行われました。当時二年生だった宮尾京子さんは「空気がよく風景のよい新しい校舎、広い校庭、このような恵まれた環境の中にある私達は、もつともっと勉強して、この上杉山中学校をよりよき学校にしたい」と記しています（杉の友より抜粋）。念願の新校舎が完成し、高い理想を掲げ、夢と希望に満ちている様子が伝わってきます。三学年全てが同じ校舎で学ぶことができたのは、昭和二十六年四月でした。

現在も、開校当初の理念は、上中魂として脈々と受け継がれ、生徒は自己を高めるべく日々努力しています。校地取得や校舎建築の折には、先輩や地域の方々の多大なるご尽力があつたことを決して忘れるべく日々努力しています。校地取得の上中を目指して、教職員一同、頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



第67回入学式 4月9日

上中の思い出

二十九回生 吉川逸郎

上中を卒業して四十四年になりますが、今でも時々、上中野球部の夢を見ます。学校に野球しに行つて、いたと言つても過言ではない。楽しかった思い出です。当時の野球部監督だった故横山奎吾先生に、成績下がると「野球部の練習大変で成績下がるなら、野球部止めるか」と言われるのを、一所懸命勉強もしました。野球部止めたくない一心で。二年三年の中体連決勝で、二年続けて決勝で敗れて、準優勝。二年の時は、宮城野中学校に。三年の時は、南小泉中学校に。悔しい思い出です。それよりも、三年の決勝で、二打席連続で見逃し三振。なぜあの時、バットを振らなかつたのか。心のどこかにフォアボールで墨に出る弱気な心が。今でも、悔いが残ります。何事も後で後悔しない。人生は強気で。今から思うと、私の人生の大きな転機だったように思います。野球部の練習が終わつた後に、レギュラーが一列になり、球ひろいをしてくれた下級生に向かい、帽子を取つて「ありがとうございました」と一礼する。感謝の気持ち。大切なことを学ばせてもらいました。野球は、クラブ全員でやる。それぞれ自分の役割がある。三年の時は、セカンドで二番バッター、一番バッターが墨に出ると、必ずバントで一番バッターを二塁に進める役割。よくバ

ントの練習をやらされました。打ちたい気持ちを抑えて、ひたすらバントの成功に集中する。一番バッターの大切な仕事。今でも、目に見えない所でもくもくと自分の仕事に精を出している

人に光りを当てる大切さ。他にも、チームワーク、エラーした人間に声をかける「ドンマイ」、守備をしていて、状況により守備位置を変える・ピッチャーの一球毎にカバーする大切さ。



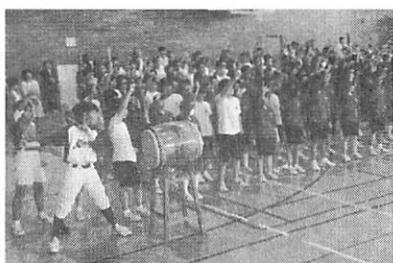
仙台市立上杉山中学校同窓会 KKRホテル仙台 平成24年10月20日

県大会初出場

ソフトボール部長 木村果鈴

私達ソフトボール部は、顧問の先生のご指導のもと、日々の練習に取り組み、県大会に出場することができました。

中総体の地区大会では、どの試合でもピンチの場面があり、その時はいつも仲間と助け合い、試合を勝ち進んでいきました。県大会出場が決定する決勝戦では、上中が先制点を取り、順調に試合が進んでいきました。ピンチの場面はあったものの、少しのミスから始まり、すぐ上中の良い流れになつたので大量点を取りました。そして試合が終わり、結果は八一四で勝利することができました。その瞬間、優勝と県大会出場が決まりました。上中は優勝が六十二年ぶりで初の県大会出場でした。決まった時は嬉しくてみんな涙が止まることはありませんでした。



中総体壮行会

私の兄が、母を説得してくれ、二年から野球部に入部。成沢君と兄には、本当に感謝です。もし、中学で野球をしていなかつたら、一生後悔していると思います。上中時代の一生忘れられない楽しい思い出です。

監督が常に言つていた「練習で泣き、試合で笑う。」今から考えると多くの大切な事を学ばせていただきました。親の反対があり、一年の入学時から野球部に入部はできませんでしたが、成沢正敏君が、強力に入部を勧めてくれ、

私の兄が、母を説得してくれ、二年から野球部に入部。成沢君と兄には、本当に感謝です。もし、中学で野球をしていなかつたら、一生後悔していると思います。上中時代の一生忘れられない楽しい思い出です。

に試合が進んでいきました。しかし、相手も負けたくないという思いから接戦になり、気が付いたら試合は終了していて、結果は負けてしまいました。少し悔いが残つてしまつた試合になりましたが、初めて県大会出場の目標が達成でき、そして長い間仲間とソフトボールができる、とても楽しい二年半となりました。

私達三年生が引退した後、新チームとしての活動が始まります。困難や試練が出てくると思いませんが、諦めず新しい挑戦が、頑張つてほしいと思います。



仙台市立上杉山中学校 第19期同期会（還暦祝いの会）

昨年十月二十日開催の二十四年度上中同窓会総会後の懇談時、須藤校長先生・志賀教頭先生と母校創設期のお話を致しました折、四中と上中の徽章やバッジ等の現物が学校には残されていない。『四中へ上中の歴史資料の一つとして、図書室にでも保存展示ができれば』との校長先生のお話でした。事の内容から一回生として後輩の為にと、前同窓会長の木皿君と相談の結果、同期生をはじめ各回生の役員等の方を通して電話作戦などにより、徽章等収集のお願いを致すことにしました。

十一月初めに女子生徒の四中のバッジが一回生、上中のバッジは五回生の姉妹から提供があり、これは幸先が良いと思いましたが後が続きませんでした。市内の数少ない帽子店や元学校売店の経営者宅等も訪ねてみましたが、ありましたのは大分前から閉店している北六番丁の帽子屋さんから、男子学生服の上中の袖ボタン一個のみでした。時間は掛かりましたが、四中の帽子はほどなたからもありませんので、私の銀メツキがすつかりハゲてしまつた物を、上中の帽章は須藤校長先生から、

を含め多くの困難を乗り越えた同窓生達が、校歌によつて心一つにノ各々の十五歳当時に思いを馳せ、一瞬にして中学時代に戻ります。

私達十九回生は当時の担任の先生方にも毎回ご出席いただき、一泊で開催。開催一年前から各組幹事が時期や場所などその都度集まつて検討します。毎回の記念写真もだいぶ増えました。その時点の背景に応じ、気追いなく、でも「続きたい！」という気持ちを持続させながら毎回開催しています。

参加できるということは健康面も含めて、とても幸せなことです。

母校への想いを胸に、これからも皆で「我が母校」を見守り続けたいと思っております。

うやく収集を完了しました。

また学校創立以来の服装等の変化を、概要次のように併記しました。

一、昭和二十二年四月仙台市立四中創立。校章・帽章・バッジを制定

二、同二十四年十月上中と校名変更に伴い校章・帽章・バッジを改定

三、服装の変遷

①学校創立時制服の規定はなかつた。男子生徒は一年は白線一本、二年は二本、三年は三本を巻いた学帽を着用した。

②昭和三十九年四月男子は詰襟学生服を、女子は白のブラウスに紺色の襟なしダブルのスーツの新しい服装を奨励服と定められた。

③平成七年四月から男女共に現在着用している服装に改正された。これに伴い学帽は廃止された。

以上の内容を36cm×52cmの特注の額に収めて完成し、五月三十一日学校に贈呈をいたしました。校長室前の廊下に掲示されております。

多くの皆様のご協力誠に有難うございました。

母校への想いは校歌にのせて

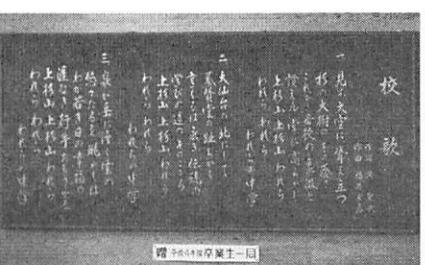
十九回生 西 條 洋 子
(旧姓 矢野)

あり、久々の対面にいつもの笑顔あり、涙あり。

総会では、現在の上中の様子や合唱部の披露があり、後輩達の健康な活躍ぶりを心頼もしく思いました。

今は私達の汗のしみ込んだ校舎も体育馆もありませんが、誇り高き伝統は脈々と受け継がれている様です。

そして、同窓会でも同期会でも必ず歌う校歌。不思議なものでいくつになつても忘れないものです。卒業以来、色々な人生を積み重ね、あの震災



また上中の学生服ボタンは生服ボタンは着用しているブレザーのボタンは藤崎デパートから購入をして、よ

のお母さんか

ら戴き、現在

四十回生の

物を十七回生

上杉山中近況報告

教頭志賀茂伸

平成二十五年度は一学年五クラス、二学年四クラス、三学年五クラス、杉の子学級一クラス計十五クラス、生徒数五〇七名でスタートしました。「未来に向かって、生き生きと心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を目標に、生徒・保護者・地域社会から信頼されています。

学校を目指して教育活動を進めています。さて、今年度も素晴らしい伝統『上中魂』を受け継ぎ、文武両道で大活躍しています。学習面では真剣な眼差しで授業に取り組んでおり、仙台市標準学力検査、全国学力調査の結果にも上杉山中の学力の高さが顕著に現れています。

また、運動面では市中総体を勝ち抜き、野球を始め、ソフトボール、剣道男子団体と女子個人、ソ

バドミントン女子団体と女子個人、バスケットボール女子、バドミントン女子団体と女子個人、陸上、水泳、体操が登場しました。中でも、陸上女子二年一〇〇M、ソフトテニス女子個人、水泳個人は東北大会へ、体操個人は全国大会まで出場しました。

文化面でも吹奏楽部が県大会で金賞、東北大会でも金賞と、ホーリ一杯に素晴らしい演奏を響かせていました。本校の活躍は、ホームページやブログ等に掲載していますのでご覧ください。

このように文武両道で活躍している上中生ですが、九月の大樹祭、十月の職場体験学習などの行事を通した人との関わりの中で人間的にさらに成長していくため、今後ともご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



本誌題名『杉山臺』について

第四代仙台藩主綱村公は、東照宮から堤町の台地一帯に杉を植えて保護し『杉山臺』と称しました。城下の各街から武家屋敷を通てこの杉山臺に向かう道を上下（かみしも）の位置により『上杉山通・中杉山通・杉山通』と呼称しました。これらの町名は一本杉通・光禪寺通など、及び北番丁とともに、江戸時

代から昭和四十五年まで呼称されていた歴史ある町名です。

我が母校が所在する学区地域の歴史を振り返ってみたとき、校名とともに、現在に残る上杉の地名が生まれる根源となっているいにしえの地名『杉山臺』がそこにあります。

(一回生 芳賀)

謙氏の揮毫によるものです。

(H.25.5.31 第1回生より寄贈)

定期総会のご案内

定期総会は毎年10月の第3土曜日に開催しています。

会場、時間についてはその年の当番幹事が決めます。当番幹事は、その年度に還暦を迎える回生が担当いたします。是非、お誘い合わせの上ご参加下さい。

上中ホームページのご案内

上中の最新情報が分かります。同窓会のコーナーもありますので、是非ご覧下さい。

[仙台市立上杉山中学校](#)

編集後記

今年の三年生は、六十五回卒業生となりますが、大樹祭で彼等の力強さと熱気を目の当たりに致しました。上中をご寄稿頂きました。上中の歴史は、生徒・先生・保護者の熱意の上に築かれてきたことを深く思いました。

(十九回生 菅原)



(平成二十五年四月現在)



「昭和二十二年四月一日（一九四七年）

（仙台市立上杉山中学校）創立により校章を制定

（昭和二十二年四月一日（一九四七年）

（仙台市立上杉山中学校）創立により校章を制定